

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902504		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームユニティー旭神		
所在地	旭川市旭神2条4丁目10番4号		
自己評価作成日	平成27年1月	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172902504-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の心身の健康が維持され、今まで出来ている事や本人の希望が継続され笑顔の見られる生活を送っています。また、地域行事に参加したり買い物の同行なので社会と関わっています。平成25年より引き続きノンアルコールデイも行っており、忘年会では家族様も参加され大変喜ばれました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ユニティー旭神」は、旭川医科大学に繋がる幹線道路に位置し、近隣には大型スーパーや医療施設、様々な商業施設が立ち並び利便性の良い立地となっている。開設して10年が経ち、地域の住民とは、散策時に挨拶が自然に交わせる関係が出来ている。取り組みとして、利用者と触れ合う時間が少しでも多くなるように、食材を大型スーパーにネット注文する事で、要望に合わせた食材が新鮮な状態で届けられている。"ノンアルコールを提供する飲み会"現在の「みのりの会」に加入し、高齢者の方々の実りある生活のため、職員と一緒に飲酒の雰囲気を楽しむ機会もある。また、交通安全キャンペーンの「アイスキャンドル」の作成に協力し、窓から見渡せる道路に並べられた「灯り」を楽しむ場面もある。他のグループホームとの交流で、研修や勉強会を行い、ケアの質の向上を常に考えている。家族には毎月の通信や一人ひとりに宛てたお手紙で、生活の様子を伝えている。担当者は、入居により利用者の生きがいのある生活の継続を意識し、思い思いの生活が出来るように努め、次の段階に向け検討している。

V. サービスの成果に関する項目(こはく館アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域活動への参加を積極的に支援し地域に根差したサービスを提供』という事業所理念を掲げ職員間で共有しています。	独自の「基本理念」と「運営方針」を日々確認している。職員は利用者の生活が、家庭的で自分らしく過ごせるように努めている。また、毎年個人目標を掲げ、ホーム目標とともにホーム長と振り返る機会を持ち、ケアの質向上に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し資源ゴミへの協力や、夏のご近所散策では挨拶を交わし顔見知りになった方もいます。	町内会の班長としての活動を含め、日々の散策時に挨拶を交わしたり、住所地在り地元の敬老会に出席するなど、積極的に交流の場に参加している。ボランティアでハーモニカの演奏や、幼稚園児が来訪して歌やお遊戯を披露してくれる場面もあり、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての勉強会はおこなっておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し町内の方、ご家族からの意見を取り入れています。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等が参加して、定期的開催されている。入居状況・活動報告・事故報告などが話し合われ、運営に活かせる機会となっている。町内の方の参加により、地域の高齢者の相談の場面もある。	会議後の会議録が作成され、会議が運営に大きく反映している事が判る。今後は参加していない家族にも議事録を配布し、情報の共有・会議への関心に繋がるように期待したい。また、広く知見者にも声かけし多くの方から意見をもらう事で、サービスの質向上に活かすことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者の変更届等、必要な手続きの相談等協力いただいています。	利用者の介護認定更新手続きやその他の相談に直接行政窓口へ出向き、信頼関係作りに努めている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加もあり、現状や質問に答えてくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の議事録は職員が目を通すようになっています。ベットからの離床時、すぐに対応が出来る様に赤外線センサーの設置や鈴が鳴る様に工夫しています。	本部開催の身体拘束委員会の情報や研修事項については、ネットを通じて情報が入り、スタッフ全員が確認し、確認のアンケート調査もっており、禁止事項について各自確認する機会がある。現在転落防止や転倒防止の為、止むを得なく柵やセンサーの設置があるが、家族と十分に相談し、外す検討も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止等は委員会や講習参加者の報告書を回覧し確認しています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	『成年後見制度』の講習案内があれば参加の呼び掛けをするつもりです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃より、面会時・電話連絡等で質問を受け付けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や職員にも気軽に話していただけるように面会時にはご家族とのコミュニケーションをはかっています。	家族来訪時の声かけや、様子を電話で報告した時に、要望・意見の把握に努めている。要望が出された時は、連絡ノートを通して職員間で共有し、迅速に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議をおこない意見があれば実践しています。	毎月開催される各ユニット会議では、運営に関する検討や利用者の状況の確認が行われている。また、年2回ホーム長との個別面談の機会もあり、悩みの相談や目標について一緒に振り返る時間を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6月・11月の人事考課時に面談を行い勤務環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(3か月・1年・3年・主任・管理者)研修を社内で行っています。また外部研修も職員に回覧し参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと合同で事例検討や救命講習を開催しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	10月末に1人入居されていますが発言・表情・行動を読み取り安心して暮らせるように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来館時にはご家族の言葉を傾聴し良好な関係が保てるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意見・状態を見て一番良い支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の気持ちを聴き一緒にできる事(食器拭き・手すり拭き・畑仕事等)をおこなっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には行事や日頃の様子をお伝えし、会話でご本人と共に過ごす時間が持てる様に支援しています。これからのケアも相談し一緒に考えていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人と外出をする方には最近の様子をお伝えし、外出の支援をお願いしています。	家族や友人の訪問もあり、馴染みの方との交流を大切にしている。家族との墓参りや正月の帰省も続いている。訪問理美容の利用も多いが、家族が整髪している場面もある。季節が感じられるようクリスマスや正月の装飾、食事のメニューに工夫をしている。1階のデイサービスに欠員があった時に、好きな麻雀の相手として出かける事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでは様々な状態の方々が輪になっておこなえる風船バレーや数人単位でおこなえる唄・館内歩行・洗濯物たたみ等で楽しく過ごせるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	平成20年に退所された方が年に数回遊びにこられたが最近では職員も変わり遠慮されるのでお誘いしているところです。年賀状のやりとりもしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長年、新聞を読まれる方には継続しておこないの会話が困難な方にはその方の行動に寄り添い時にはゼスチャーでお互いの気持ちを確認しています。	利用者の意向は日常生活の中で聞いたり、ケアの中での気づきを大切にしている。家族の意見や意向は事前に聞いたり、面会時に確認している。センター方式の活用で「出来る事・出来ない事」を記載し、私の姿シートで利用者に代わり想いを表現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・本人より伺っています。『出来る事・出来ないことシート』で経過を見ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録には本人の言動も記し職員間で共有しご家族にはひと月の様子を『今月の様子』として渡しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には面会時や電話で報告と次回のケアプランを説明し意見を伺っています。ユニット会議で職員の考えも入れてケアプランを作成しています。	担当職員はカンファレンスの中で話し合われた内容をまとめ、モニタリング、評価シートに記入している。計画作成者の確認後、担当職員は仮の介護計画を作成し、再度計画作成者と十分に話し合い、仕上げていく。ケアの流れが把握できる事で、日常利用者と関わる意義やサービスの趣旨が理解でき、職員の質の向上に繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	『ケース記録』に個別の記録をしてケアの実践状況をわかるようにしているのと緊急性・重要性のあるものは『業務日報』の日中の様子・夜間の様子に個別に記載しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスの催しに呼ばれて交流を図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が訪問してくださり話し相手となり楽しいひと時を過ごしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族と本人の希望に沿うようにしています。ご家族対応で受診をしていた方で受診が大変になってきた事もあり往診に切り替えたりもしています。	基本的には家族対応としているが、遠方の家族や都合が悪い時は、職員が同行支援している。家族受診の時は、状況を細かく伝えたり、文書化する事で主治医に伝わるようにし、帰宅した時に受診状況を確認している。協力医の往診もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による週一回の健康チェック・月一回の協力病院の看護師による健康チェックを受けており、その時々の状態を伝え指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介添書を作成して申し送りをおこなっています。入院中も様子を伺いご家族の意向を聴き取って介護・看護につなげています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は医師と家族とホームとで話し合っています。	入居時に利用者・家族には、将来に向けての対応について説明している。重度化した場合には、主治医を交え家族・職員が十分に話し合い、思いに応えられるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルは見やすい所に提示しています。近隣ホームの方と一緒に救命講習を受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練(年2回)おこなっていますが地域の方とは都合が合わずおこなっていません。	年2回日中・夜間想定避難訓練を行っている。出火場所により避難場所の確認や、防火戸の外側に避難するなど、利用者と一緒に訓練している。災害時の備蓄としてご飯や水が用意されている。近隣のグループホームとAEDの使用法やその他の対応について研修している。	緊急や災害時の対策は万全と言う事はなく、常に検討を続ける事が必要である。今後も地域協力の構築と、このグループホームの地理的に考えられる災害や、停電・水害・地震・雪害等について対策の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る事・出来そうな事・出来ない事を見極めそれぞれの場面で不快にならないように伺いながら支援しています。	呼び名は名字を基本に、利用者の人格やプライバシーに配慮している。個人と特定できる名称や写真については、事前に同意を取り交わす事で、通信に使用したり、下駄箱や居室の表札に記名している。職員同志の言動が気になる時は、お互いに指摘し合える関係作りを目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望・要望を伺って返答に困っているようなら二者選択出来る様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせて本人にどうしたいのか？伺って毎日を過ごしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所には櫛を用意し整髪出来る様にしています。行事では女性は薄化粧や毎日リップクリームで唇を保護しています。男性はシェーバーを渡し毎朝髭剃りが出来る様子を支援しています		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	胡麻和えの胡麻を擦ったり、卵・エビ・枝豆の殻むきを一緒にこなっています。食器拭きも手伝っていただいています。	各ユニットで考えたメニューを、毎日職員と利用者が調理している。ホールの直ぐ傍で作られる食事は、食欲を掻き立て職員と一緒に食事を楽しんでいる。自力摂取困難な利用者には、ゆっくりと利用者のペースに合わせ、職員が隣で優しく介助している姿も見られる。外食で回転寿司に出かけたり、外で焼肉をする等食べる場面の工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食・水分量はチェックしており不足にならないように声掛けの工夫をしています。お茶が進まない方にはジュースやスポーツドリンクに替えて提示しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助・見守りをしています。先に出来る事をしていただき最後は職員が仕上げ磨きをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で立てない方には2人介助でトイレでの排泄をおこなっています。	職員は利用者の状況や様子を感じ取り、声かけ誘導している。夜間もトイレ排泄を基本に、利用者によっては睡眠を優先し、居室でのパット交換も行っている。ホームに入居する事により、おむつからリハビリパンツ、尿便意の自覚、パットのみ使用に状況が大きく改善された方も多くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多めにとったり食物繊維を多めにとるように心掛けています。排便を促す為に体操や歩行運動もとりにれています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れ楽しんでもらったり、本人の希望に合わせてゆっくり入っていただいています。拒否がある方には翌日に延ばしたり順番を変えたりタイミングを図ってお誘いしています。	週2回一日3人程度でゆったりと入浴している。希望により入浴剤や保湿剤を使い、入浴を楽しんでもらえる工夫もしている。毎回お湯を入れ替え、職員と一緒に本音が語られる場面となっている。家庭風呂の対応が難しくなってきた利用者は、1階のデイサービスの機械浴を利用する事も出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで昼寝をされたり午後より居室にて休まれるなど自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正確に服薬できるように見守り介助し身体状況の変化に注意を払っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方に唄っていただいて周りの方も参加と一緒に歌ったり、晩酌が日課な方はホームでも毎晩日本酒をのまれています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	友人との外出や町内・近隣のお祭り事に出かけたり本人の希望を聞き散歩に出かけたりしています。	年次計画書には、各種イベント・外出行事・地域交流の場を予定し掲載している。夏場は周辺の戸外に出る機会を多く持ち、大勢で出かける機会にも努めている。お花見や神社祭、上富良野にラベンダー見学、町内の盆踊り、特に外食で出かける回転寿司は利用者に人気となっている。今後は、冬祭り見学も予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望される方には自己所有のお金を持ってお店に行きます。本人が選び、支払いは出来るところまでお願いし後は職員が支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望があればすぐに対応しています。年賀状も作成しご家族に送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度は1日2回確認し調整しています。季節ごとにリビング内を一緒に飾り付けています。居室を施錠する方の通路の電気は明るい物に取り換え鍵穴を見やすくしています。	各ユニットの設えは、色合いも違いそれぞれの雰囲気漂っている。ホールには健康器具が配置され、リハビリや健康維持のため、利用する姿が見られる。ダイニングの直ぐ傍で調理される食事は、場面ごとに利用者が手伝う姿もある。気になる匂いもなく、室温、湿度・清潔を心がけ、快適に過ごせるように工夫し支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前で仲の良い方同士洗濯物をたたみながらお話しされたりソファにてゆっくり新聞を読まれたり1人掛けソファでテレビを見て過ごされえ居ます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具を用意されたり家族の写真や飾りやお仏壇や戒名などを置いてご先祖のご供養をされている方もいます。	利用者らしさが溢れる各居室は、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、安心して暮らせる空間となっている。仏壇やテレビ、鏡台も配置され、掲示されている写真を眺めながら家族と一緒に寛げる場面となっている。窓からは幹線道路が見え、これから予定されている交通安全キャンペーンのアイスキャンデルが楽しめる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー作りなので入浴時の移動や車椅子での自操など自分の力で出来る様に支援しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902504		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームユニティー旭神		
所在地	旭川市旭神2条4丁目10番4号		
自己評価作成日	平成27年1月	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「こはく館 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172902504-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(さんご館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し周知しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のイベントへ参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ積極的には行っていませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し町内の方、ご家族からの意見を取り入れています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者の変更届等、必要な手続きの相談等協力していただいています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については社内に委員会があり、会議を通して情報を共有しています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止も委員会があり会議を通して情報を共有しています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の案内を職員に回覧しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時に契約書・同意書等の説明をし、質問を受けながら行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様との会話やご家族の面会時の意見や要望をユニット会議で話し合いを行っています		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているユニット会議で話し合いを行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6月・11月の人事考課時に面談を行い勤務環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(3か月・1年・3年・主任・管理者)研修を社内で行っています。また外部研修も職員に回覧し参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと合同で事例検討や救命講習を開催しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様には入居前の状況や入居後の状況を記録し、コミュニケーションを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の状況を面会時や電話での連絡時に報告し要望等あればその都度職員間で共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の様子・変化をみて介護計画に反映しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状況を面会時や電話での連絡時に報告し要望等あればその都度職員間で共有しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様のできる事の把握をし、日常のお手伝いをして頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より通院していた病院の通院介助を行い、馴染みのDrや看護師と話をし過ごせるよう配慮しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で認知症への理解が出来ない時は職員が間にはいり支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族が季節の野菜等を持ってきてくれたりし、当時の話をすることがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度声掛けを行い本人の意向を優先しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況をセンター方式の一部、担当ケアマネージャーからの情報を利用しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の過ごし方は毎日の記録に残し、経過をセンター方式の一部に記録しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族よりの希望、要望、意見を尊重し3か月毎に計画を見直し、ミーティングで話し合いを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録を中心に職員間で情報を共有しミーティングで話し合いをおこなっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴はホーム内だけではなく、状況により、デイサービスの特浴を利用しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会、清掃活動への参加をしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診介助や、医療連携の病院での対応もしており、入居者様の訴えや変化がある時に連絡を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が24時間連絡が出来る体制になっており、排便状態や体調の変化のある時には指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をし、ご家族と連絡を取り面会に行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化時にはDr、ご家族と今後について話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習への参加や非常時対応マニュアルを用意しています。ホームにAEDも設置しており救命講習等で使い方を学んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間を想定し避難訓練を行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの入居者様のプライドを傷つけないよう声掛けを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望、意見を聞き自己選択・自己決定できるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合わせて声掛けを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・ご家族の希望に合わせて訪問理容をおこなったり外出時の洋服を選んで頂いています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話から好みの食べ物を聞いたり、もやしのひげ取り等のお手伝いをお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量・水分量を表に付け、体重の増減により食事量の調整を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けを行い、仕上げ磨きの介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるように、時間をみて声掛けを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や歩行の声掛けをし、体を動かすよう声掛けを行っています。水分量をみて野菜ジュースの提示も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望を聞き週2回以上入浴できるように案内しています。また身体の状態により特浴の案内も行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望で日中、居室で休まれる時はカーテンを閉め休まれています。夜間は居室の戸も閉め休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書をファイルにし見やすいようにし、薬に変更のある時には記録に残し情報の共有をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望のある時には嗜好品を代理で購入したり、月に1回ノンアルコールで楽しむ会「みのりの会」を行っています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出や温かい時期には町内への散歩を行っています。月1回のレクリエーションでも外出の機会を設けています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個人でのお金の管理をしている入居者様はおりません。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかける案内が出来るようにしています。また手紙等の投稿もできるようにしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールではソファーでも休めるようにし、テレビ・音楽をかけています。室内の温度・湿度を1日2回測定し換気や加湿を行っています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時等は自席が決まっているほうが安心される入居者様が多くおられる為、席は決めています。定期的に席変えをし交流できるようにしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心し生活していけるように居室には普段より使用されていた物や写真の掲示が出来るようにしています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子利用の入居者様が多い為、自走時には安全に移動できるように通路には物を置かないようにし、歩行時にもしっかりと手摺に掴まれるように支援しています。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ユニティー旭神

作成日：平成 27年 2月 16日

市町村受理日：平成 27年 2月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議後の会議録が作成され、会議が運営に大きく反映している事が判る。今後は参加していない家族にも議事録を配布し、情報の共有・会議への関心に繋がるように期待したい。また、広く知見者にも声かけし多くの方から意見をもらう事で、サービスの質向上に活かすように。	運営推進会議の議事録を家族にも配布し関心を持ち参加して頂けるようになる。	毎月の請求書等に会議議事録も同封し家族にも配布します。	1年
2	35	緊急や災害時の対策は万全と言う事はなく、常に検討を続ける事が必要である。今後も地域協力の構築と、このグループホームの地理的に考えられる災害や、停電・水害・地震・雪害等について対策の検討をするように。	非常時の水・米飯は用意しているが、他の食べ物・冬季の暖がとれるよう準備する。	飲料水・お米は用意しているが、その他おかず等の用意(長期保存のもの)冬季の暖がとれるよう暖房機を用意する。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。